

こうちょう 校長 丸岡 恵真

井手やまぶき支援学校の「図書ラウンジ」を皆さんはどう思いますか。図書の樋口先生にいっぱいおもしろい本を教えてもらって楽しんでください。



さて、私が本を好きになったきっかけの本を紹介したいと思います。

小学校の低学年の頃から、夜、床に入って、どのくらいの時間だったんでしょうか、毎日本を読んで寝るのが習慣になっていました。少年少女向けの世界のいろいろなお話がいくつかあった本を一冊ずつ買ってもらってました。お母さんとの約束はその一冊を読んだら次の本を買ってあげるという約束で、それを楽しみに読んでいたところがありますが、もちろん本がおもしろかったから読んでいたのです。そのきっかけになった本は、・・・。

「小公子」(しょうこうし：何度もアニメやドラマになっています。「リトル プリンセス」という題名の映画になったりもしています。作者はバーネット夫人という方で、1886年に書いた児童むけ小説です。1886年と言うと日本は明治時代です。長く読みつがれていますね。)

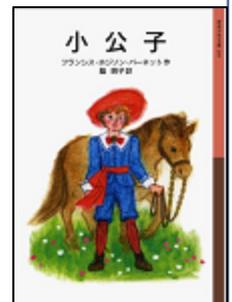
< あらすじ >

時は1880年代の半ば、ところはアメリカ・ニューヨークの下町。その町に住む少年セドリックは優しいお父さんお母さんや下町の友達に囲まれ、楽しい生活を送っていた。

しかし、セドリックのお父さんが亡くなってしまふ。お父さんの死を知ったセドリックのおじいさんドリンコート伯爵はセドリックを跡継ぎにするため、イギリスに連れて来る。

おじいさんドリンコート伯爵の方針でお母さんとも離れ離れに暮らさなければならなかったセドリックが、その持ち前の明るさと思いやりで、頑固で人を寄せ付けないおじいさんの心を溶かしていく。

おじいさんを変えていくセドリックのすばらしさに感激します。



“いずれの人にもすべて、その人の本を”

“いずれの本にもすべて、その読者を”

このことばは、1892年から1972年まで生きた、インドのランガナタンという人のことばです。「図書館学の五法則」とよばれ、ほかにも3つの法則があります。図書館の仕事の土台になっています。

子どもたちひとりひとりが本との良好な関係をむすぶサポートをします。開校前にも大変お世話になりましたが、今後もYS(やまぶきサポーター)などでお力をお借りできれば幸いです。よろしく願いいたします。

お気に入りの一冊です。次のおたよりでくわしくご紹介できればと思います。

